

市民病院だより

感染対策とワクチンのはなし

感染管理認定看護師 永渕智寛ながふちともひろ

東京オリンピック・パラリンピックまで約1年となりました。楽しみにしておられる人も多いと思います。

今回は、このような国際行事を感染対策の視点で、ワクチン接種と絡めてお話しします。

国際行事における感染対策の特徴

国際行事では、さまざまな国からたくさんの方が日本に入国されます。

また、人と一緒に微生物（感染症の原因）も入国してしまいます。そのため、日本で流行していない感染症が、この機会に日本国内で流行してしまう可能性があります。

感染対策の方法

感染症を予防するためには、

次の3つの考え方があります。

- ① 持ち込まない
- ② 持ち出さない
- ③ 拡げない

では、この3つの感染対策を、ワクチンの視点を絡めて考えてみましょう。（表参照）

3つの感染対策（ワクチンの視点を絡めて）		
① 持ち込まない	② 持ち出さない	③ 拡げない
ワクチンを接種し、感染症に感染しないようにする。	自分が病気かなと思ったら、必要な外出を避ける。	大勢の人がワクチンを接種することで、感染する人を減らす。



麻しんの歴史

ワクチンで予防できる病気の一つに、麻しん（はしか）があります。

米国、カナダや南米諸国では、ワクチン2回接種の徹底で麻しんの排除に成功していました。

我が国でも、「はしかゼロ運動」を展開していましたが、平成19年の春に日本各地で麻しんが流行し問題になりました。

そこで、麻しん定期接種の第3期、第4期の実施が開始となり麻しん患者が減少し、平成27年3月にWHO西太平洋地域事務局から日本は麻しんの排除状態であることが認定されました。しかし、海外旅行者の麻しんの持ち出しや、持ち込みなどが原因となり、近年再び問題となりつつあります。

昨年の沖縄での麻しん事例を振り返る

昨年、旅行者を発端に沖縄で麻しんが大流行した中で、「ワクチンを2回以上接種していた人は1割程度で、その人たちが2次的に感染した事例はな

かった」と言われています。

つまり、ワクチンを2回接種することで、自分はもちろん周囲の人に感染させるリスクを減らすこととなります。

ワクチン接種の効果

ワクチンを接種することで、その病気にかかりにくくすることができま。また、病気にかかった場合でも、症状が軽くなることが期待できます。

ワクチン接種のすすめ

昨年から麻しん・風しんが全国各地で流行しています。今年、佐賀でも数年ぶりに麻しん患者が発生し、保健所からの働きかけもあり、各医療機関で対策を行っている状況です。

ワクチン接種がお済みでない人は、この機会にワクチン接種をおすすめします。

※参考文献

『予防接種実施者のための予防接種必携（2017）』

時間外受診をされる人へ

急病などでの時間外受診の場合は、必ず電話で宿日直医師の担当診療科を問い合わせください。専門外の疾病の場合は、診察できない場合がございますのでご了承ください。

【問合せ】小城市民病院 ☎ 73・2161

ホームページ・アドレス <http://www.city.ogi.lg.jp/hospital/>